:



むくうきを風経めもうでしきわ 門與極方的多近或語長力 るが空み方が安福方山思振 あいとまざいたとうり中かって おうちなどううが中の人も 月二日文列、大地震大艺 まるかんな やりないからした

ないですっ

ちゃろはまこるかのかから

近夜番的からずあるで れおあまなとうをもあるよう 我、神~~~れ我八大くすかとれ かさそういのかしまけるける の初行人形かると人かきる きがおきできる 山のかくひかっまってたれるか をだべいたまでは風かない 不中できろうなけるよう けるなねい指別のみまう 今やれたろうちゃうかんき あらいのるはスガーちゃの数 ともうっまの切ばならり 今七地山東内~ られが まるではましたととのま 一てかるのかりかくろう いけいなとうちといの大火 たくいちゃくんなはな 教皇旗でとう してだけるいせない けるとろれ となるはない 大なな

するからみないますがありませんがあるとあったでありるとありれるとと

サマシングと 称ウスやころは べんなっているか おというなるとう 年湯路が 多なな数 因不為宝丽小四条十八七多 私山西六十九 スマイラき 种四年中午 中がきな 十ス六分がなれ お谷ろう 要各面家 言語でき 北後のな 之土无天

いるれまるかは上なり えるがくそかのろくなのなくやく こう方できてもいるけらぞのまなど するである私人スジーのかい くつき福出るやいることうくっとういろもくのろうになくなる ぞうとか教えとなる子芸を大変老何必な対しち ですなまる日本福の支太太产 子門をかや天田及の格を町 をかられる後きむる人がハア、四町からまちのてがろうなん か中京的母人同所ところの本都大大大大大大人 る少度小的馬を門口外は井丁 世紀丁科なあするめ丁门まとって 一切的丁格的丁小さる富品的 方分了十大九色は、後山下人が すけたなかとう丁新なるとき 家。限 下

大地ないろう

スいとろののその後大かって 発かんを放きすかけ あくずとまたってき るといけのおよりなせると るけなけるけは敬るる数 ますろうまき光様なら人教 るいの町できたけるなとうち 到在京本府管流すかう れんきは打きっち 人。如此法法以致安全

する人町後大 後ろうるい 姓大於是ありは日東京 は他中華なるべい大名では そ数えきだけるんちっち るべのは、井町大松町大は丁冬食 南かっぱーちとでとせるの おを放徒失九十二丁で方 小祖を去あるるのろうち 係の明れ町でかる町五川通 在后面活必面必清面八口回 なでるまである。 福子見が一人ははか さるんかりれるかんとうちの 何一ま、多食活、家不可ち からそつぎ仲けをつちまする さぞうをいいであるまずん すりているなくろれのい

2 3

4 5 6 7 9 📶 1 2

8

3

4 5 6 7 8

9 40

8

今きそ上出を 佐安郎下在去 小紀ね」ま 以小爷地院伸丁茅丁展路表色 もなくなきるであから可以 あるりろそれ代地は大名は 何しはくつきれやけるあ ふっち他のえるがでくるなな おおいなるならいこと 代したらい他の水ははのめくかかく きふぜんなく

> 8 9 🕅

3

2 4 5 6 7



6 7 8

9 20 1

2 3

4 5 6 7

・ に十九方 『石大子 『石井三井』 「石十九方 『石井三井』 「石井三井」 吉·那一次五年 30V

同六已未午。天堂 元治元甲子年。多一三丁卯

■三合二文外 三大十支

●一合一久

のいろの大

2 3 4 5

6 7 8

9 🕕

2 3

4 5

9 (11)